

令和4年度
卒業生に対する
学修成果に関する調査報告

令和5年4月
志學館大学 学務委員会
志學館大学 IR室

1. 趣旨

学生が本学での4年間の学修の成果をどのように受け止めているかを調べるために、2022年度（令和4年度）卒業生全員を対象に、アンケート調査を実施した。

本学のディプロマ・ポリシー（以下、DPという。）とそれに基づくカリキュラムは、2018年度入学者より大幅に改訂された。今回対象とした卒業生は、1年次からすでにスタートしていた新カリキュラムの下での教育を受けた学年であり、見方を変えると新カリキュラム2期生ということになる。なおこの間各種 IR 報告をもとにした現行教育課程の検証結果を踏まえ、2023年度入学生からは、共通教育と専門教育の接続性を特に意識した新たな教育課程（当面の間、新新カリキュラムと呼ぶ。）がスタートしている。従ってこの新新カリキュラムの検証作業は、完成年度である2026年度以降に行うことになる（2026年度卒業生を含め、これ以降の卒業時アンケートが該当する）。

本報告において、特に断りのない場合、[] 内の数値や記述は、卒業生に対して実施した過去の同様の調査（以下「2021 調査」「2020 調査」「2019 調査」「2018 調査」という）における値を示し、同順で直近のものから表記してある。

2. 資料と調査方法

アンケートの設問は14項目とした。これらの項目は、現在のDPを基に6つのカテゴリーに分けられるので、DPカテゴリーと対応させて以下に示す。これらの項目は、2018調査以来、変えていない。本学のDPは、巻末に付録として示してある。

- | | |
|-----|-----------------------------|
| DP1 | Q1. 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性 |
| DP2 | Q2. 人類の文化、社会と自然に関する教養 |
| | Q3. 物事を科学的に、論理的に考える方法や力 |
| | Q4. コンピュータの操作方法や情報処理技術 |
| | Q5. コミュニケーションの能力 |
| | Q6. 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢 |
| DP3 | Q7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能 |
| | Q8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力 |
| DP4 | Q9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え |
| | Q10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力 |
| DP5 | Q11. 倫理観 |
| | Q12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識 |
| DP6 | Q13. 多様な言語・社会・文化に対する理解 |
| | Q14. 国際人として活躍する素地 |

各項目について、「大学でのさまざまな学修によって、設問の能力や知識を身につけたと感じているか」を問い、「4. 大変身についてた」、「3. 身についた」、「2. 少しは身についた」、「1. 身につかなかった」の4つの選択肢から回答を求めた。

調査は、ユニバーサルパスポートシステムを用いて行った。なお、卒業式の日までに未回答であった者を対象として、付加・補完的に紙ベースの追加調査も行ったことに変更はない。

3. 分析結果

3.0 回答者の属性

評価対象者（卒業生）は335 [312, 295, 270, 256] 人で、回答率は、98% [93%, 90%, 84%, 89%] で本調査開始以来、最も高く、未回答者は6名であった（表1）。学科ごとの回答率は、心理臨床学科（以下、心臨）99% [94%]、人間文化学科（以下、人文）98%

[100%]、法律学科（以下、法律）98% [89%]、法ビジネス学科（以下、法ビ）98% [90%] であった。

回答の方法は学科間でやや相違はあるものの全体では、84% [82%, 80%] がユニパを通じて行っており、データ収集の方法としては妥当であった判断できる。紙ベースによる回答割合が15% [11% [10%]（心臨17% [8%, 10%]、人文4% [16%, 2%]、法律18% [9%,

12%]、法ビ14% [19%, 16%])]、無回答はわずか2% [7%, 10%] 6名であった(表1(補足))。

各学科及び学士課程全体(以下「全学」という。)の学生の回答の平均値、標準偏差、最頻値を表2~15に示す。なお、以下の結果を理解するために、すべての回答の平均値は3.15 [3.15, 3.12, 3.12, 3.14]であったことに留意されたい。

表1 調査対象及び回答者の数

学科	対象学生数	回答者数	回答率 (%)
心理臨床	134 [127, 111, 105, 97]	132 [120, 104, 103, 80]	99 [94, 94, 98, 82]
人間文化	57 [57, 52, 46, 40]	56 [57, 48, 40, 37]	98 [100, 92, 87, 93]
法律	101 [97, 87, 75, 68]	99 [86, 75, 49, 62]	98 [89, 86, 65, 91]
法ビジネス	43 [31, 45, 44, 41]	42 [28, 38, 31, 39]	98 [90, 84, 70, 95]
合計	335 [312, 295, 270, 246]	329 [291, 265, 226, 218]	98 [93, 90, 84, 89]

表1(補足) 学科別の回答方法の比較 (%)

学科	ユニパ	紙	無回答
心理臨床	81 [87, 84]	17 [8, 10]	2 [6, 6]
人間文化	95 [84, 90]	4 [16, 2]	2 [0, 8]
法律	80 [79, 75]	18 [9, 12]	2 [11, 14]
法ビジネス	84 [71, 69]	14 [19, 16]	2 [10, 16]
合計	84 [82, 80]	15 [11, 10]	2 [7, 10]

3.1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性

この設問は、本学の建学の精神に関連するものである(表2)。

全学平均値は3.3 [3.2, 3.2, 3.2, 3.0]で、過去4年間でわずかずつではあるが上昇してきている。各学科の平均値は心臨3.2, 人文3.4, 法律3.4, 法ビ3.2であった。最頻値は、昨年度2021調査では全学およびすべての学科で3であったが、人文と法ビで4だった。

表2 Q1に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.74)	3	3.1(.86)	3	3.2(.81)	3
人間文化	3.0(.76)	3	3.2(.59)	3	3.4(.65)	4
法律	3.0(.71)	3	3.3(.66)	3	3.3(.78)	4
法ビジネス	3.0(.79)	3	3.2(.76)	3	3.2(.64)	3
全学	3.0(.74)	3	3.2(.77)	3	3.2(.75)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.72)	3	3.2(.79)	3		
人間文化	3.1(.74)	3	3.4(.75)	4		
法律	3.3(.70)	3	3.4(.61)	3		
法ビジネス	3.2(.63)	3	3.2(.77)	4		
全学	3.2(.71)	3	3.3(.74)	3		

3.2 人類の文化、社会と自然に関する教養

この設問は、主に教養教育あるいは共通教育に関連するものである（表3）。なお、人間文化学科では、専門教育全体とも関連していると見なせる。

全学での平均値は3.1 [3.1, 3.1, 3.1, 2.9] で、学科間では、人文が3.4 [人文3.3, 人文3.4, 法律3.3, 人文3.1] でもっとも高く、人文は過去5年間で通算4回最も高くなっていた。法ビでは2.9 [心臨3.0, 法ビ2.9] と低かった。最頻値は、人文で4, それ以外の学科では3であった。Q14とともに学科間の差異が大きい項目（0.5以上の差異）であった。

表3 Q2に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.75)	3	2.9(.83)	3	3.0(.85)	3
人間文化	3.1(.89)	3	3.1(.76)	3	3.4(.67)	4
法律	2.8(.75)	3	3.3(.71)	3、4	3.1(.69)	3
法ビジネス	2.8(.76)	3	3.2(.72)	3	2.9(.74)	3
全学	2.9(.77)	3	3.1(.79)	3	3.1(.77)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.73)	3	3.0(.79)	3		
人間文化	3.3(.73)	3	3.4(.75)	4		
法律	3.1(.71)	3	3.1(.72)	3		
法ビジネス	3.1(.81)	3	2.9(.75)	3		
全学	3.1(.74)	3	3.1(.77)	3		

3.3 物事を科学的に、論理的に考える方法や力

全学での平均値は3.2 [3.1, 3.1, 3.1, 3.0] で、学科間の差異が最も小さい [大きな, 小さい] 項目の1つであった（他にQ12）（表4）。最頻値は、人文で4, それ以外の学科では3であった。

表4 Q3に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.86)	3	3.0(.80)	3	3.1(.86)	3
人間文化	3.1(.88)	3	3.2(.75)	3	3.1(.79)	3
法律	3.0(.86)	3	3.3(.62)	3	3.2(.77)	3
法ビジネス	3.0(.84)	3	3.1(.83)	3	3.1(.71)	3
全学	3.0(.85)	3	3.1(.77)	3	3.1(.80)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.77)	3	3.2(.80)	3		
人間文化	3.0(.78)	3	3.2(.90)	4		
法律	3.1(.71)	3	3.2(.71)	3		
法ビジネス	3.3(.66)	3	3.1(.71)	3		
全学	3.1(.78)	3	3.2(.78)	3		

3.4 コンピュータの操作方法や情報処理技術

全学での平均値は3.0 [3.0, 2.9, 3.0, 2.9] で、やや低かった設問2つ（他にQ14は2.7）の中の1つである（表5）。2021調査ではほとんどなかった学科間の差異が大きく、人文で3.2と高く、法律で2.9と低かった。最頻値は、人文で4、それ以外の学科では3であった。

表5 Q4に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.79)	3	2.9(.78)	3	3.1(.77)	3
人間文化	3.1(.74)	3	3.0(.82)	3	3.1(.78)	3
法律	2.9(.87)	3	3.0(.82)	3、4	2.8(.89)	2
法ビジネス	2.8(.87)	2	3.1(.70)	3	2.7(.65)	3
全学	2.9(.82)	3	3.0(.78)	3	2.9(.80)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.79)	3	3.0(.80)	3		
人間文化	3.1(.79)	3	3.2(.77)	4		
法律	3.0(.82)	2	2.9(.82)	3		
法ビジネス	3.0(.88)	3	3.1(.66)	3		
全学	3.0(.81)	3	3.0(.79)	3		

3.5 コミュニケーションの能力

全学平均値は、3.2で、学科別では法律が3.3と高く、法ビが3.1で低かったものの学科間差異は並(0.2)であった(表6)。平均値は例年高い項目であるが、今回は目立って高くはない。最頻値は人文、法ビで4(法ビは3, 4同数)、心臨と法律で3だった。全学でも最頻値は4であった(他にQ7, Q9, Q10, Q11, Q12)。

表6 Q5に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.80)	3	3.0(.87)	3	3.0(.90)	4
人間文化	3.2(.78)	3	3.2(.71)	3	3.4(.84)	4
法律	3.0(.85)	3	3.6(.64)	4	3.4(.76)	4
法ビジネス	3.1(.90)	4	3.2(.67)	3	3.2(.65)	3
全学	3.1(.82)	3	3.2(.80)	4	3.2(.83)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.77)	3	3.2(.80)	3		
人間文化	3.1(.75)	3	3.2(.88)	4		
法律	3.2(.81)	4	3.3(.69)	3		
法ビジネス	3.2(.83)	4	3.1(.88)	3, 4		
全学	3.2(.78)	3	3.2(.79)	4		

3.6 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢

全学の平均値は3.3 [3.2, 3.2, 3.3, 3.1] と、例年平均値が高い設問のひとつであり、2022

調査で最も高い平均値だった項目の1つである（もう1つはQ7）。学科間差異は0.2 [0.2, 0.5] で2年続けて小さくなっている。法ビを除く3学科が3.3 [法律3.3, 人文3.4, 法律3.4] で高く、法ビ3.1 [法ビ3.1, 法ビ2.9, 法ビ3.1] で低かった（表7）。

表7 Q6に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.84)	4	3.2(.78)	3	3.2(.76)	3
人間文化	3.2(.89)	4	3.3(.73)	4	3.4(.67)	3
法律	3.1(.76)	3	3.4(.73)	4	3.2(.75)	3
法ビジネス	3.2(.79)	3	3.1(.93)	4	2.9(.77)	3
全学	3.1(.81)	3	3.3(.78)	4	3.2(.75)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.70)	3	3.3(.79)	4		
人間文化	3.2(.78)	3	3.3(.77)	4		
法律	3.3(.76)	4	3.3(.67)	3		
法ビジネス	3.1(.77)	3	3.1(.78)	3		
全学	3.2(.74)	3	3.3(.75)	3,4		

3.7 専門分野や所属する学科の専門知識や技能

全学の平均値は3.3[3.3, 3.2, 3.3, 3.2] で、2021 調査に引き続き、平均値が最も高い項目の1つであった（もう1つはQ6）。学科間では、人文が3.4と高く、法ビが3.1で低かった。学科間の差異は大きい方の項目であった（表8）。最頻値は全ての項目の中で唯一、全学及び全学科で4となった。

表8 Q7に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.72)	4	3.2(.76)	4	3.2(.83)	4
人間文化	3.0(.82)	3	3.3(.72)	3	3.4(.74)	4
法律	3.2(.75)	3,4	3.4(.73)	4	3.1(.85)	3,4
法ビジネス	3.1(.83)	4	3.3(.78)	4	3.0(.72)	3
全学	3.2(.77)	3	3.3(.74)	4	3.2(.81)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.70)	4	3.3(.75)	4		
人間文化	3.2(.71)	3	3.4(.80)	4		
法律	3.2(.75)	3	3.3(.71)	4		
法ビジネス	3.3(.60)	3	3.1(.84)	4		
全学	3.3(.71)	3	3.3(.76)	4		

3.8 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力

この設問は、課題発見・解決型教育やアクティブラーニングに関連するものである（表9）。

平均値は、全学では3.2 [3.1, 3.1, 3.1, 3.0] で、この4年間で微増傾向にある。人文、法律で3.2と高く、法ビが3.0で低かった。学科間の差異は並であった。

表9 Q8に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.75)	3	3.0(.76)	3	3.1(.81)	3
人間文化	3.0(.83)	3	3.1(.74)	3	3.2(.69)	3
法律	3.1(.78)	3	3.4(.69)	3	3.1(.88)	3
法ビジネス	2.9(.79)	3	3.3(.58)	3	3.1(.69)	3
全学	3.0(.78)	3	3.1(.73)	3	3.1(.79)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.70)	3	3.1(.76)	3		
人間文化	2.9(.66)	3	3.2(.89)	4		
法律	3.2(.68)	3	3.2(.67)	3		
法ビジネス	3.2(.77)	3	3.0(.85)	3,4		
全学	3.1(.70)	3	3.2(.77)	3		

3.9 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え

この設問は、主にキャリア教育及び職業観の涵養に関連するものである（表10）。

平均値は、全学では3.2 [3.2, 3.3, 3.2, 3.1] で、学科間の差異は比較的大きく、法律が3.4で高く、法ビが3.1で低かった。

表10 Q9に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.83)	3	3.1(.83)	4	3.2(.86)	4
人間文化	3.1(.88)	3	2.9(.84)	3	3.3(.69)	3,4
法律	3.1(.85)	4	3.6(.61)	4	3.4(.67)	4
法ビジネス	3.3(.85)	4	3.4(.66)	3,4	3.3(.69)	3
全学	3.1(.84)	4	3.2(.79)	4	3.3(.76)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.84)	4	3.2(.85)	4		
人間文化	3.0(.88)	3	3.2(.89)	4		
法律	3.3(.86)	4	3.4(.63)	3		
法ビジネス	3.3(.82)	4	3.1(.83)	3,4		
全学	3.2(.85)	4	3.2(.79)	4		

3.10 生涯にわたって学習を続けていく意思や力

この設問は、生涯学習能力の涵養に関連するものである（表11）。

平均値は、全学で3.2 [3.2, 3.2, 3.2, 3.1] でこの5年間で大きな変化はない。学科間の差異は小さい方の分類でき、法律で3.3と高く、法ビで3.1と低かった。ただ最頻値が、2021 調査では全学及び全ての学科で4だったところが、2022 調査では全て4となつている（法律は3,4

同数) ことは大きな変化である。

表 11 Q10 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.85)	3	3.2(.80)	3	3.2(.83)	4
人間文化	3.1(.88)	3	3.3(.75)	4	3.3(.68)	3
法律	3.0(.86)	3	3.4(.67)	4	3.2(.81)	4
法ビジネス	3.2(.94)	4	3.2(.78)	3	3.1(.71)	3
全学	3.1(.87)	4	3.2(.76)	3	3.2(.78)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.74)	3	3.2(.80)	4		
人間文化	3.1(.72)	3	3.2(.90)	4		
法律	3.1(.81)	3	3.3(.70)	3, 4		
法ビジネス	3.2(.74)	3	3.1(.89)	4		
全学	3.2(.76)	3	3.2(.80)	4		

3.11 倫理観

平均値は、全学で 3.3 [3.2, 3.2, 3.2, 3.0] と高く、微増傾向にある。人文が 3.4 と高く、法ビが 3.1 で低かった。最頻値は法ビが 3 で、残りは全学を含め 4 だった (表 12)。学科間の差異が比較的大きかった。

表 12 Q11 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.90)	3	3.2(.81)	3	3.2(.82)	4
人間文化	3.1(.88)	3	3.1(.67)	3	3.1(.78)	3
法律	2.9(.83)	3	3.2(.62)	3	3.2(.76)	3
法ビジネス	3.0(.78)	3	3.3(.68)	3	3.1(.70)	3
全学	3.0(.85)	3	3.2(.73)	3	3.2(.78)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.75)	4	3.2(.83)	4		
人間文化	3.1(.81)	3	3.4(.71)	4		
法律	3.2(.74)	3, 4	3.3(.69)	4		
法ビジネス	3.3(.70)	3	3.1(.84)	3		
全学	3.2(.76)	3	3.3(.77)	4		

3.12 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識

平均値は、全学で 3.1 [3.1, 3.2, 3.1, 3.0] で大きな変化はない。人文と法ビが 3.2 で高く、心臨と法ビが 3.1 で低いが、学科間の差異は小さい (表 13)。最頻値は心臨を除く 3 学科及び全学で 4 だったことが、2021 調査と比較した大きな変化である。

表 13 Q12に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.87)	3	3.0(.93)	3	3.0(.89)	3
人間文化	3.1(.86)	3	3.0(.77)	3	3.2(.83)	3
法律	3.0(.79)	3	3.3(.72)	4	3.3(.77)	4
法ビジネス	3.1(.87)	3	3.2(.82)	3	3.3(.86)	4
全学	3.0(.84)	3	3.1(.85)	3	3.2(.84)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.78)	3	3.1(.90)	3		
人間文化	3.1(.81)	3	3.2(.85)	4		
法律	3.2(.88)	4	3.2(.81)	4		
法ビジネス	3.3(.70)	3	3.1(.89)	4		
全学	3.1(.81)	3	3.1(.86)	4		

3.13 多様な言語・社会・文化に対する理解

この設問は、異文化理解、多文化共生と呼ばれる領域に関連するものである（表 14）。

全学の回答の平均値は 3.1 [3.1, 3.0, 3.2, 2.9] であり、2019 調査で大きく上昇して以降、大きな変化はない。2021 調査では学科間差異が小さかったが、2022 調査では大きくなり、人文が 3.4 と高く、心臨と法ビが 3.0 と低かった。最頻値は人文だけが 4 で、全学及び他 3 学科は 3 だった。

表 14 Q13に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.8(.89)	3	3.1(.89)	4	2.9(.89)	2
人間文化	3.2(.83)	4	3.2(.74)	3	3.4(.68)	4
法律	3.0(.80)	3	3.2(.77)	3	3.0(.82)	3
法ビジネス	3.0(.81)	3	3.3(.79)	4	2.8(.92)	3
全学	2.9(.85)	3	3.2(.82)	3, 4	3.0(.86)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.72)	3	3.0(.85)	3		
人間文化	3.1(.73)	3	3.4(.68)	4		
法律	3.1(.82)	3	3.1(.77)	3		
法ビジネス	3.0(.92)	3	3.0(.78)	3		
全学	3.1(.77)	3	3.1(.80)	3		

3.14 国際人として活躍する素地

この設問は、いわゆるグローバル人材育成に関連するものである（表 15）。

全学の回答の平均値は 2.7 [2.7, 2.6, 2.8, 2.6] で、過去 4 年間の調査と同じく全設問中でもっとも低かった。2021 調査の学科間差異は小さかったが、2022 調査では、全設問中最も差異

の大きい2項目のうちの1つであった（他にはQ2）。昨年度に引き続き、いずれの学科もすべての設問の中でもっとも低い平均値となった。

最頻値は、心臨が2、人文が4、法律が3、法ビが2、全学で2であり、心臨は5年連続で2であった。複数の学科で最頻値に2が出現するのはこの項目だけであり（3年連続）、2022調査で最頻値に2が出現するのはここだけであった。ただし全設問中もっとも標準偏差が大きい項目でもあり、獲得実感の個人差も大きいことも分かる。

表 15 Q14に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.4(1.03)	2	2.5(.99)	2	2.5(.96)	2
人間文化	2.9(.95)	3	2.8(.78)	3	2.9(.89)	3
法律	2.6(.99)	2	2.9(.90)	3	2.7(.94)	2
法ビジネス	2.7(.85)	3	3.0(.78)	3	2.6(.89)	3
全学	2.6(.99)	3	2.8(.93)	3	2.6(.94)	3, 4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.7(.85)	2	2.6(.96)	2		
人間文化	2.8(.94)	3	3.1(.96)	4		
法律	2.7(.92)	2, 3	2.7(.93)	3		
法ビジネス	2.7(1.01)	3	2.8(.93)	2		
全学	2.7(.90)	3	2.7(.96)	2		

4. まとめ

4.1 設問項目ごとの結果のまとめ

本調査では、全回答数 4606 [4074, 3710, 3162, 3052] のうち 41% [44%, 41%, 43%, 41%] を選択肢 3 が占め、また設問ごとの回答平均値の大半が 3.0 ± 0.3 程度にあるという過去 4 年間の調査と同様、「中庸」的な結果であったが、ごく少数ではあるが、それら以外（平均値 3 から離れた値であったり、最頻値が 2 や 4 であった場合など）の事項から、DP に掲げる教育達成目標の実現度を学生がどのように感じているか、ある程度浮き彫りにできたと考える。

全学で回答平均値が高く、全学最頻値 4、学科最頻値 4 が多い設問は、学生の達成感が高いと判断した。この群には、2019 調査では「自ら学ぶ姿勢(Q6)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」が、2020 調査では「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」「地域貢献意識(Q12)」と要約できる項目が入っていた。2021 調査では「職業観(Q9)」だけであったが、2022 調査では「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「倫理観(Q11)」「地域貢献意識(Q12)」の 4 項目が入った。調査回により多少の出入りはあるが、「倫理観(Q11)」がこの群にリストされるのは始めてである。この点については後に述べる。

一方、回答の傾向が上記と逆の場合は、達成感が低いと判断できる。これには、「国際人として素地(Q14)」が当てはまり、過去 3 年と同じであった。ただし Q14 は先述の通り、これまでと同様に全学でも学科別でも標準偏差も総じて高く、個人差が大きい観点と言える。

回答平均値の学科間での差が小さく、全学での標準偏差が大きくない設問は、比較的全学一様な教育になっていると判断した。この群には「科学的論理的思考力(Q3)」「地域貢献意識(Q12)」が入る。これには 2021 調査では「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「異文化等の理解(Q13)」がはいっており、2020 調査では「科学的論理的思考力(Q3)」「問題発見・解決能力(Q8)」「倫理観(Q11)」が、また 2019 調査では「个性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性(Q1)」「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「倫理観(Q11)」「異文化等の理解(Q13)」が入っていた。今回、この群に入った項目は、これまでとは傾向をやや異と

する。

一方、逆の場合は、学生の達成感に学科間での差が大きかったと言える。これには「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「国際人の素地(Q14)」が入る。これには2021調査では「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「科学的論理的思考力(Q3)」「問題発見・解決能力(Q8)」「職業観(Q9)」が入っており、2020調査では「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「自ら学ぶ姿勢(Q6)」「異文化等の理解(Q13)」が、また2019調査では「国際人の素地(Q14)」が入っていた。これまで同じように「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」が共通して出現している。

4.2 学科平均値の比較による各学科の特色

2022調査における各学科の特色は、次の通りである。

(心理臨床学科)

心臨では、学科間の比較で最高点となったものが全14観点中2つ、最低点となったものが3つあった。学科間比較で心臨が最高点を取ったのは「科学的論理的思考力(Q3)」「自ら学ぶ姿勢(Q6)」で、逆に最低点を取ったのは「地域貢献意識(Q12)」「異文化等の理解(Q13)」Q14「国際人の素地(Q14)」であった。特に「国際人の素地(Q14)」は4学科中最低点2.6であり、学科内でも14項目中最も低い値であった(ただしそれ以外はいずれも項目平均値は3.0を超えている)。最頻値が4となった観点が5つあったが、このうち「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」「倫理観(Q11)」は2021調査から引き続き出現している。最頻値が2となった観点は「国際人の素地(Q14)」だけであり、この点も2021調査と同様であった。

(人間文化学科)

2022調査での人文はいずれの評価軸においても突出して高かった。学科間比較では最高点となった観点は14観点中11あり、最低点を取った観点はなかった。最頻値は14観点全てにおいて4であった。最高点とならなかった3つの観点「コミュニケーション能力(Q5)」「職業観(Q9)」「生涯学習能力(Q10)」に学科としての特徴が出現しているかといえそうではなく、いずれも中庸的な得点であった。また「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「異文化等の理解(Q13)」「国際人の素地(Q14)」の高さが特に顕著であった。

(法律学科)

法律は、学科間比較最高点となった観点が14観点中8つあり、人文に次いで多かった。このうち「コミュニケーション能力(Q5)」と「職業観(Q9)」は3年連続であった。一方2021調査で4つあった最低点となった観点は1つに減り、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」だけであった。2021調査では最頻値が4となった項目は全学科中最も多かったが、今回は「専門知識や技能(Q7)」「倫理観(Q11)」「地域貢献意識(Q12)」の3つに留まり、全学科中最も少ない点が特徴的であった。

(法ビジネス学科)

法ビは学科間比較で最高点となった観点がなく、最低点となった観点は14観点中12となった。しかしながら、12観点のうち11で平均点は3.0を超えており、獲得を実感できていないというわけではないと評価できる。ただし「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」は3.0を下回っており、学科間差異も大きく、最高点の人文3.4と比較すると目立って低い。最頻値が4となったのは、「個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性(Q1)」「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「地域貢献意識(Q12)」の4つであった。

(全学)

あらためて2022調査の全学での傾向を見てみると、2021調査結果に比して、全学の平均値は14観点全てで、同値かわずかながら増加しており、減少した観点はなかった。このトレンドは2年連続である。

また学科間の平均値の差異は、今回は最大で0.5 [0.3, 0.6] であり、仮に差異0.3を基準に取れば7つ [4つ] あった。このうち特に「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」は3年連続で学科間差異の大きな項目となっている。また「国際人の素地(Q14)」は2021調査でいったん学科間差異はなくなったが、今回再び大きな差異が見出された。なおこれらはいずれも人文が高く、心臨や法ビが低い。

平均値が相対的に高く(3.2以上)、最頻値が4となっている学科が多い観点は、2020調査及び

2021 調査では「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」「地域貢献意識(Q12)」の4つであった。2022 調査では「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「倫理観(Q11)」「地域貢献意識(Q12)」がこれに該当する。「コミュニケーション能力(Q5)」と「職業観(Q9)」が消え、「生涯学習能力(Q10)」「倫理観(Q11)」が入った。観点の出入りがあったとしても、DP を束ねて本学が重視してきた部分と概ね合致していると言える。

全学的に学生の獲得感が得られていない観点(3.0 以下)は、2020 調査及び2021 調査と同様に「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「国際人の素地(Q14)」の2つであり、この結果は3年連続である。このうち「国際人の素地(Q14)」は4年連続で同様の結果を得ており、本学の教育は学生に十分なインパクトを与えることができていないといえるかもしれない。

4.3 DP 項目ごとの受け止め方

各設問の回答を、6つのDPカテゴリ別にまとめて分布を調べた。図5に今回の[2022 調査]結果を示し、図1から図4は順に過去の調査結果である。

過去の調査結果では、各DPの分布の形は2つのグループに分けることができる。1つは3にモードを持ち、左に裾を引くもの(Aグループ)と今ひとつは3及び4にモードを持つもの(Bグループ)である。典型的にはDP1、DP2、DP3、DP6がグループAで、DP4、DP5がグループBである。これまでの変化をまとめると、DP5は[2019 調査]及び[2018 調査]ではグループAであったが、[2020 調査]ではグループBに近くなり、[2021 調査]ではDP4とほぼ同型で、グループBに含まれるようになった。DP6は大きく分けるとグループAだが、その中でも幾分異なり、全体的なピークが低く、2と1の比率が比較的高い。[2022 調査]ではDP1とDP3がグループBに近くなり、グループAに分類できるのはDP2とDP6となっているところが特徴的である。

上記の結果は、DP4「職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している」とDP5「倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている」の達成度は継続的に比較的高く、今回はこれに加えてDP1「个性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性」とDP3「専門的知識・技能と総合的な問題発見・課題解決能力を持っている」の高まりを見て取れる。

一方、DP2「豊かな教養と科学的論理的思考法、情報技術、コミュニケーション能力を身につけ、自ら学ぶことの喜びを知っている」に変化はなく、DP6「多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている」すなわちグローバル化対応能力の達成度は、依然としてなおやや低いと学生が感じていることを示唆している、とまとめることができる。

4.4 本学の個性・特色の反映等

上記の結果から、これまでの調査結果に引き続き、本学がその個性・特色として標榜している事項の中で、「学生の社会参画意識を育む大学」、「地域とともに歩む大学」は、学生が獲得できたと感じていると評価できる。

また倫理観に関連する「コンプライアンスと誠実性」については、比較的高まりつつある一方、教養教育と関連する「人間力教育」を獲得したと感じている学生は、なお一部の学科にとどまり、全学的には波及していない。

平成20年度中教審答申が提起した「学士力」の中で、専門分野に関わらず求められている、「汎用的技能」のうち、「コミュニケーション・スキル」は得られたとしているが、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」が得られたかについては、学科間の差異が大きく、学生は必ずしも高くは評価していないとまとめることができる。

5. 結語

この調査は大学4年間の学びを通じた、卒業時の「成長実感」、「能力獲得実感」を問うている。緒言にて示したとおり、2022 卒業生は現在のDPの下で編成されたカリキュラムで4年間の教育を受けた、新カリキュラム2期生である。2018 入学生から適用された新カリキュラムの構成理念の1つは、大学・学部共通の専門科目というカテゴリを設け、大学の教育目的のメッセージ性を持った科目を置き、DPとの整合性を取りやすくするといったことがあった。例えば両学部共に「倫理学概論」「哲学概論」を学部基礎科目群に置き、大学の教育目的に該当する科目として位置づけている。今回、大きく「成長実感」できた観点に、初めて「倫理観(Q10)」が入ったが、今後、当該箇所に「倫理観(Q10)」といった項目が継続的に出現するようなら、新カリ

キュラム設置のねらいの一端は達成できたと評価できるだろう。

また、学科間差異が大きい項目と判断できる項目は、2021 調査では、0.3 以上差異基準で4 項目であったが、今回は同0.3 以上基準で7 項目あり、そのうち2 つは0.5 以上の差異があった。学科による相違が顕著に検出される結果となり、今回は特に法ビの低さが目立った。

既に述べた通り、2023 年度入学生からは新新カリキュラムがスタートしているが、新新カリキュラムでは特に共通教育と専門教育の連続性、換言すれば現代的な教養教育の充実に力点が置かれている。また、2023 年度4 年生は、2020 年度入学生より導入した入学後の学科分属制度（レイトスペシャライゼーション）のもとで教育を受けた学生であり、以後、質問項目を維持しつつ継続的にモニタリングを続け、従前の結果との比較等を行うことで、本学の教育の成果と達成度に関する貴重な資料が得られると考える。

最後に、2022 調査の回答率は98%で、未回答者はわずか6 名であった。回答に協力してくれた卒業生及び回答率向上に尽力頂いた関係各所に記して謝意を表したい。

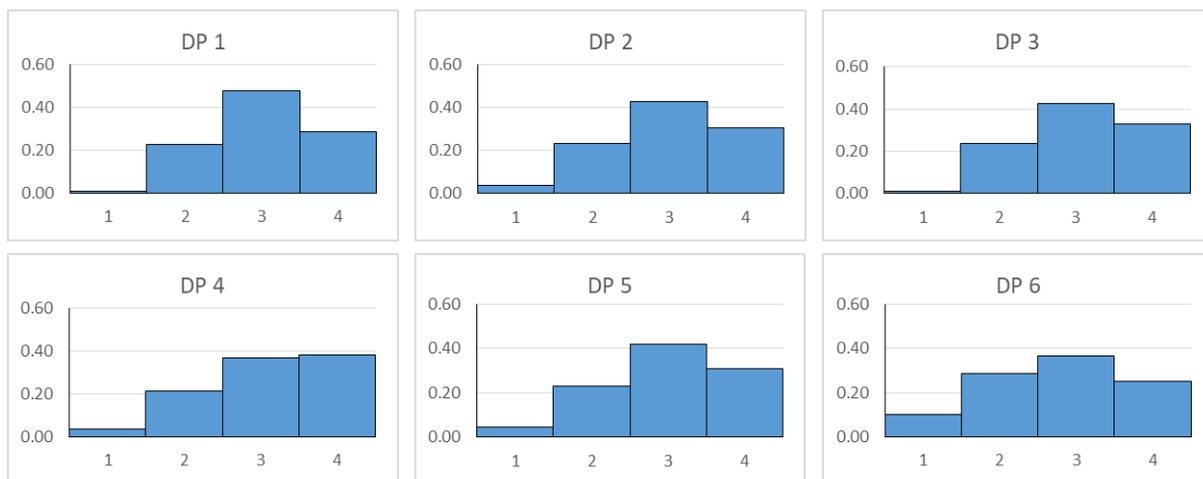


図1 [2018 調査]

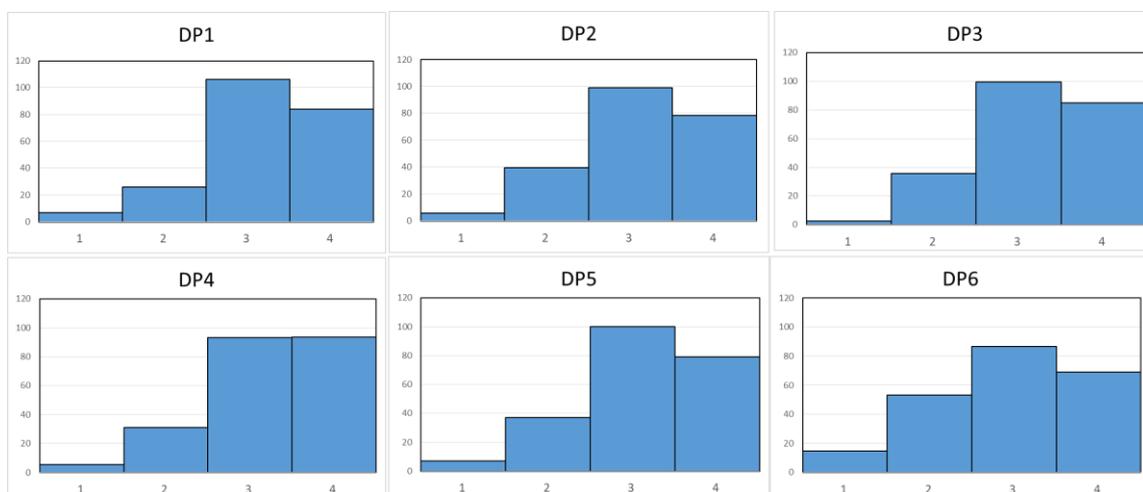


図2 [2019 調査]

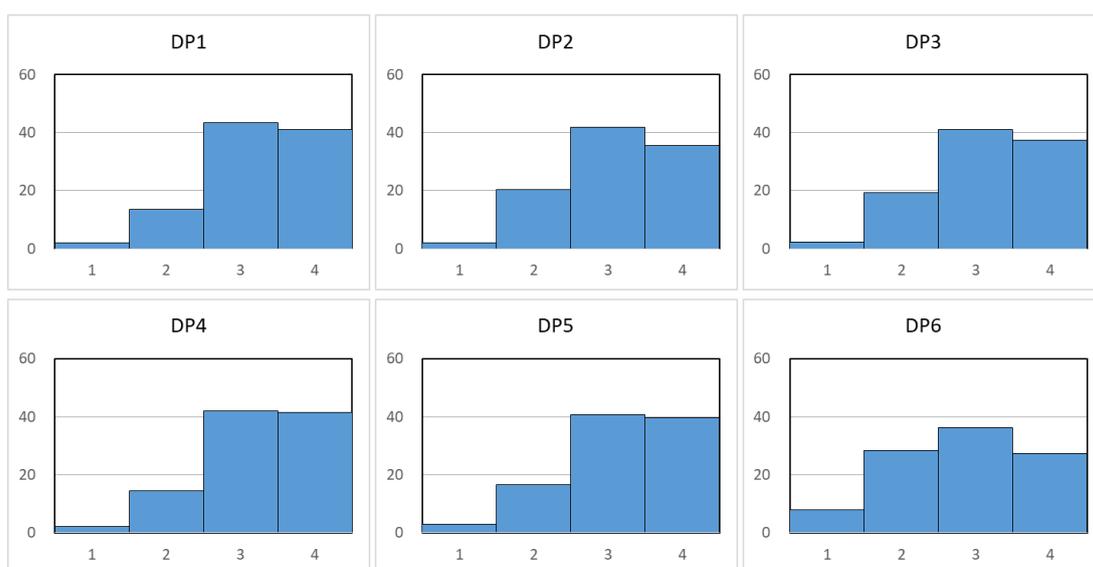


図3 [2020 調査]

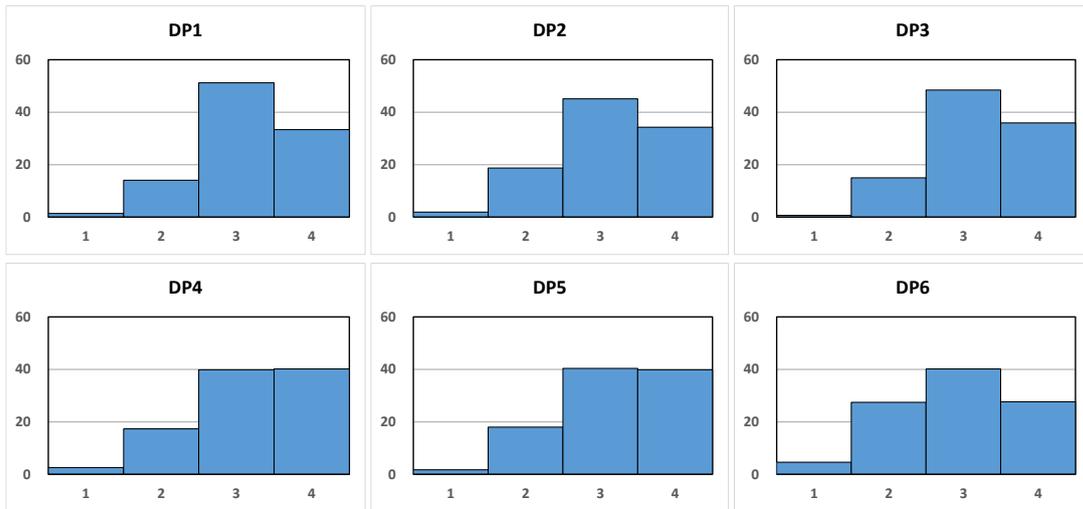


図4 [2021 調査]

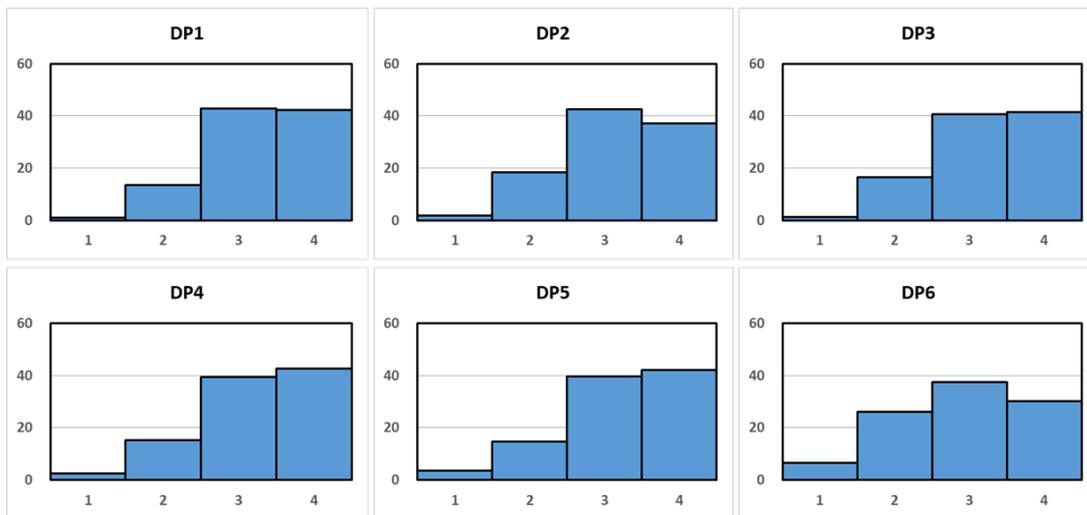


図5 [2022 調査]

【付録】

志學館大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に従い、その教育目標を実現することを目指し、以下に掲げる資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

- 1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性が身につけている。
- 2 人類の文化、社会と自然に関する豊かな教養と科学的・論理的思考法、情報処理技術、コミュニケーション能力を身につけ、自ら学ぶことの喜びを知っている。
- 3 実践的で体系的な専門的知識と技能を身につけ、総合的な問題発見・課題解決能力を持っている。
- 4 職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している。
- 5 倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている。
- 6 多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている。